

2019 年度 愛知学泉大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
2301142	発達心理学 Developmental Psychology	山田 陽平	専門	2	選択	1年 前期

科目の概要

本科目では、児童生徒の心身の発達の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

学修内容	到達目標
① 児童生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を学ぶ。	① 児童生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。
② 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を学ぶ。	② 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	必須の資料以外の情報(特に、書籍、論文)にアクセスする。
	働きかけ力	
考え抜く力	実行力	書かれていることや人の話を鵜呑みにするのではなく、ほんとうにそうなのか検証する。
	課題発見力	よりよい学習指導、生徒指導を行うために知らなければならない発達の問題を挙げる。
	計画力	
チームで働く力	創造力	複数の文献を読み、よりよい学習指導、生徒指導のあり方を考える。人間を一面的ではなく多面的に、単眼的でなく複眼的にみる。
	発信力	良質な情報を見極め、自分の言葉で再構築し、適切な表現で他者に伝える。他者が理解できない場合は表現を柔軟に変更して再トライする。
	傾聴力	好き嫌いや気分に関係なく、他者の考えを丁寧に聞く。適当な質問をして他者の考えを引き出す。他者の意見を認める。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	本授業では他者と協調することが求められるため、協調しようと努力することを規律とする。協調は仲良くすることと同義ではない。本授業で求められている課題に対して共に協力してよりよい成果を出すことを指す。すなわち、根拠をもって自分の意見を提示し、他者の意見や気持ちに配慮し、一緒によりよい解を作り上げることを指す。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト: 問いからはじめる発達心理学 有斐閣 2014年
 参考文献: 発達心理学の基本を学ぶ ミネルヴァ書房 1997年
 参考文献: 発達心理学(現代心理学入門2) 岩波書店 1995年
 参考文献: 発達心理学Ⅰ 東京大学出版会 2011年
 参考文献: 発達心理学Ⅱ 東京大学出版会 2013年

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連: 教育心理学, 生徒指導論, 教育相談
 資格との関連: 中学校教諭一種免許状(家庭)・高等学校教諭一種免許状(家庭)

学修上の助言	受講生とのルール
とにかく多くの文献を読むことを求める。難しいと言ってもすぐにあきらめるのではなく、何度も読む、わかるところがないかを探す、他の文献にトライするなど、理解するためにやれることをすべて実行してもらいたい。	予習としてテキストを読んでくることを前提に授業を展開する。教職科目であることをから、原則として、1回の欠席も認めない。万が一欠席する場合は事前に担当者まで連絡をした上で、自分で補習を行いその証拠を示すこと。特別な事情による欠席については補習で代える。

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標		各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
筆記試験				
小テスト				
レポート	20	①	✓	到達目標に応じたレポート課題を課す。 乳幼児期から青年期までの発達に関する基本的事項を正確かつ丁寧におさえたいうえで、子どもたちをよりよく学ばせる教育のあり方や、発達の問題への対応について論じることができているかを評価する。レポートを提出しない場合は不可とする。
		②	✓	
成果発表 (口頭・実技)				
作品				
社会人基礎力 (学修態度)	10	①		以下の七つの観点それぞれに対して、15週を通して観察し、評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ● 必須の資料以外の情報(特に、書籍、論文)にアクセスしている。(主体性) ● 書かれていることや人の話を鵜呑みにするのではなく、ほんとうにそうなのか検証している。(実行力) ● よりよい学習指導、生徒指導を行うために知らなければならない発達の問題を挙げている。(課題発見力) ● 複数の文献を読み、よりよい学習指導、生徒指導のあり方を考えている。人間を一面的ではなく多面的に、単眼的でなく複眼的にみることができている。(創造力) ● 良質な情報を見極め、自分の言葉で再構築し、適切な表現で他者に伝えている。他者が理解できない場合は表現を柔軟に変更して再トライしている。(発信力) ● 他者の考えを丁寧に聞いている。適当な質問をして他者の考えを引き出せている。他者の意見を認めている。(傾聴力) ● 他者と協調している。(規律性)
		②		
		③		
		④		
		⑤		
その他	70	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> ● 新聞課題 14点(1回1点×14回) 新聞課題は、授業の始めに持ってこられていない場合は0点とする。 <ul style="list-style-type: none"> ● 予習課題 14点(1回1点×14回) ● 復習課題 42点(1回3点×14回) 予復習課題の遅刻提出は認めない。
		②	✓	
総合評価 割合	100			

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)の基準
乳幼児期から青年期までの発達に関する基本的事項を正確かつ丁寧におさえたいうえで、子どもたちをよりよく学ばせる教育のあり方や、発達の問題への対応について論じることができている。ここでの「丁寧におさえる」とは、発達心理学の研究成果の引用に際して、説明が過剰でも不足でもなく適当な分量であることを指す。一つのトピックに対して、提示する資料以外に文献を一つでも参照していればAとし、複数の文献を参照していればSとする。ただし、欠席0回かつ、すべての課題を期限までに提出していることを前提とする。これを満たさない場合はB以下とする。	乳幼児期から青年期までの発達に関する基本的事項を正確におさえたいうえで、子どもたちをよりよく学ばせる教育のあり方や、発達の問題への対応について論じることができている。ここでの「正確におさえる」とは、発達心理学の研究成果を誤りなく引用できていることを指す。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	ヒトとして生まれ、人として生きる	講義 グループ討議	<ul style="list-style-type: none"> 教職課程で発達を学ぶ意義を考えることができる。 ヒトと人の違いを説明できる。 	予習:テキスト序章を読んでくる。 復習:課題に回答する。 予復習課題の内容は到達レベルC(可)の基準に書いてあるものを基本とし、進行状況にあわせて適宜追加修正を指示する。15週まですべて同様とする。	60	主体性 実行力 発信力 傾聴力 規律性
2週 /	発達するとはどういうことか	講義 グループ討議	発達するとはどういうことかを説明できる。	予習:テキスト第1章を読んでくる。 復習:課題に回答する。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3週 /	認知発達の理論を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ピアジェの理論 情報処理理論 社会文化理論 ダイナミックシステムズ理論 	講義 グループ討議	発達理論のフレームワークを説明できる。	予習:指定の資料をみる。 復習:課題に回答する。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4週 /	生命の芽生えから誕生まで	講義 グループ討議	生命の芽生えから誕生までを説明できる。	予習:テキスト第2章を読んでくる。 復習:課題に回答する。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5週 /	見て・さわって・感じる —赤ちゃんがとらえる世界	講義 グループ討議	赤ちゃんがとらえる世界を説明できる。	予習:テキスト第3章を読んでくる。 復習:課題に回答する。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6週 /	他者との関係性を築く —コミュニケーションと人間関係の発達	講義 グループ討議	コミュニケーションと人間関係の発達を説明できる。	予習:テキスト第4章を読んでくる。 復習:課題に回答する。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7週 /	「いま」「ここ」をこえて —言語と遊びの発達	講義 グループ討議	言語と遊びの発達を説明できる。	予習:テキスト第5章を読んでくる。 復習:課題に回答する。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8週 /	自分を知り、自分らしさを築く —関わりの中で育まれる自己	講義 グループ討議	自己が他者との関わりの中で育まれることを説明できる。	予習:テキスト第6章を読んでくる。 復習:課題に回答する。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名:主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9週 /	関わりあって育つ —仲間の中での育ち	講義 グループ討議	仲間の中での育ちについて説明できる。	予習:テキスト第7章を読んでくる。 復習:課題に回答する。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10週 /	思考の深まり —学校での学び	講義 グループ討議	思考の発達を説明できる。	予習:テキスト第8章を読んでくる。 復習:課題に回答する。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11週 /	子どもからの卒業	講義 グループ討議	青年期の発達の特徴を説明できる。	予習:テキスト第9章を読んでくる。 復習:課題に回答する。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12週 /	大人になるために	講義 グループ討議	成人初期の発達の特徴を説明できる。	予習:テキスト第10章を読んでくる。 復習:課題に回答する。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13週 /	関わりの中で成熟する	講義 グループ討議	成人中期の発達の特徴を説明できる。	予習:テキスト第11章を読んでくる。 復習:課題に回答する。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14週 /	人生を振りかえる	講義 グループ討議	成人後期の発達の特徴を説明できる。	予習:テキスト第12章を読んでくる。 復習:課題に回答する。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15週 /	発達は十人十色 —発達におけるつまずきをどう理解し支えるか	講義 グループ討議	発達におけるつまずきとその支援を説明できる。	予習:テキスト第13章を読んでくる。 復習:課題に回答する。	120	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力